

<http://www.shika-implant.org/>

インプラント
ニュース



since 1972
Japanese Society
of Oral Implantology

第15号

平成24年2月10日発行

Implant News No.15

公益社団法人 日本口腔インプラント学会会報

発行人 川添 堯彬 編集 公益社団法人 日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 芝コトブキビル301

TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

HP: <http://www.shika-implant.org/> Eメールアドレス: jsoi@peace.ocn.ne.jp

【本号のトピックス】

安全・安心なインプラント治療を目指して／第41回 学術大会報告
第42回 学術大会案内／表彰者紹介

安全・安心なインプラント治療を目指して

日本口腔インプラント学会 常務理事 伊東隆利

平成24年の新年にあたり、一言ご挨拶申し上げます。昨年は未曾有の東日本大震災で多くの方々、中でも本学会会員の皆様も被災され、困難な中で新年をお迎えのこととお見舞い申し上げます。

さて、インプラント医学の目覚ましい進歩により、インプラント治療は今や「陽」のあたる分野となり、国民医療の一翼を担うほどになり、低迷する歯科界を底上げしています。しかしながら、「影」の部分というべき、医療事故、訴訟、クレーム、インシデント、アクシデントが絶えないことも事実であり、マスコミを通じて大きく報道されて心を痛めています。

公益社団法人日本口腔インプラント学会では、学術大会の度毎にメインテーマとして「安全・安心」をとりあげ、いろいろな角度からシンポジウムを組み啓発に取り組んでいます。また口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会では、必ず安全・安心のテーマをとりあげ、会員の意識向上、資質の向上に資しています。めざましい技術の進歩だけに目を奪われることなく、基本中の基本の安全・安心に注意を払っていくよう心がけたいものです。

安全という意味ではインプラント材料だけに限らず、診療の環境—清潔・滅菌下での手術・処置が行われているか、が重要であります。

そして何よりも求められるのは、術者の医療者としての高い倫理観、技量と知識なども含んだ一

連の安全システムとしてインプラント治療が成り立っているか、であります。これまでの歯科治療術式よりも更に安全性が高く、継続性のある医療水準を国民の誰もが望んで受診し、治療を受けています。最近、NHKをはじめマスメディアもこれまでのインプラントバッシングの立場から、期待の方に移行しているのは好ましいことと個人的には思っています。

今や本学会は会員12,000人を超す歯科界最大の学会となりました。筆者は古くは本学会の日本歯科医学会加入問題、社団法人化問題、専門医制度問題、公益社団法人化問題など目まぐるしく変化する中で役職を務めさせていただきました。執行部の先生方、会員の先生方に感謝申し上げたいと思っております。

さて、かつては車による事故、航空機による事故など文明の利器が進めば進むほど、利点と共に事故という影がさらけ出されてきました。しかし、その中から安全に対する意識が高まり、対策が立てられ、知恵と勇気を持って対応がなされ、今や車は日本が誇る先進輸出技術となっています。日本の車が機能的、アメニティに優れているだけでなく安全性を格段に高めた結果であります。

これからは日本の緻密な安全性に裏打ちされたインプラント診療システムが世界に向かって発達できることを祈っています。

第41回 日本口腔インプラント学会 学術大会開催報告(1)

大会長 堀田康記

公益社団法人・日本口腔インプラント学会第41回学術大会が9月16日(金)～18(日)の3日間、名古屋国際会議場で開催されました。本大会は、昨年11月9日に内閣府より公益法人格の認定後、公益社団法人として初めての記念すべき全国大会でした。しかしながら、東日本大震災、福島原発の事故などの逆境下で、大会長として果たして本当に開催が可能なのか?という心配が常に脳裏にありました。当該地区の皆様には大変申し訳ないのですが、幸運にも名古屋はその直接の影響下からは免れ、何とか開催できたこと、また開催の一週間後には台風が名古屋に来襲し、結果的にはその間隙を縫って開催できたことは幸運でした。また、参加者は4,118名を数え過去最多となり、本当に皆様には感謝しております。

本大会は、『インプラント医療安全の推進行動』をメインテーマとして掲げ、そのテーマの一環として骨移植材についてのシンポジウムも開催されました。そこでも明らかになったように、それらの材料の良し悪しは別としても、薬事の問題において、日本の臨床家は他の先進諸国に比べて圧倒的に不利な状況下にあるのは間違いありません。もちろん、法を順守することは当然のことですが、今後、他の先進諸国とのタイムラグを解消すべく

本学会が骨移植材の承認申請を進めるという課題に取り組んでいく必要があると思います。

また、本学会と提携関係にあるドイツインプラント学会(DGI)から会長のProf. Dr. Hendrik Terheyden以下計7名の理事が来日され、講演されました。この提携関係は今後も続くことであろうから、ますますの両学会の協力関係が期待されます。

その他に、今回、プログラムのなかで大会長のわがまま(申し訳ありませんでしたが)で特に力を入れたのはアジアセッションでした。私は、近年アジア諸国におけるインプラント治療のレベルが格段に上がり、うかうかしていると日本が後ろに置いて行かれるのではないかと危惧さえています。経済界では日本のガラパゴス化という言葉が近年多用されています。そうならないよう、できれば今後もアジア諸国との交流を深めていくべきであると考えています。

最後に、実行委員長として多大なるご尽力をいただいた愛知学院大学インプラント科の村上 弘先生をはじめ、多くの先生方、出展等でご協力いただいた業者の方々に心より御礼申し上げます。誠に有難うございました。



会場風景



理事長挨拶



開会式



国際セッションの記念撮影

第41回 日本口腔インプラント学会 学術大会開催報告 (2)

実行委員長 村上 弘

9月16(金)～18日(日), 名古屋で開催いたしました公益社団法人・日本口腔インプラント学会第41回学術大会には4,118名という過去最高のご参加をいただき, 実行委員長として厚く御礼申し上げます。本学術大会は昨年, 11月11日に待望の公益社団法人となり, その最初の学術大会でございました。しかしながら, 真に残念なことでありますが, 3月11日に東日本大震災が起り, 同時に起きた原子力発電所事故も絡み, 多くの学会が開催を見合わせる中, 大会長もご心配されたように, 本学学術大会も開催が危ぶまれました。

先が見えない不安な中で, 準備を進めてまいりましたが, 企業出展や演題募集も低調で, 実行委員のモチベーションも下がる一方でした。そのような中で, 実行小委員会の小松晋一先生や加藤大輔インプラント科医局長, 上野温子先生らに元気づけられ, 背中を押されて, 関連企業に電話やメールで出展を促したり, 一題でも多く, 演題を出していただけるように大学の関連講座にお願いしました。その成果あってか, 初夏には企業出展, 演題も集まり, 学術大会開催のめどが立ちました。しかしながら, 春の段階での準備の遅れは大きく

影響し, 実行小委員会の先生方のみならず, コングレの広間さんやスタッフの皆様には, かなりきついスケジュールだったのではないのでしょうか?

蓋を開けてみれば, 学術大会の規模縮小もやむ得ないところを参加者数4,118名, 演題数541演題(ケースプレゼンテーション231, 口演208, ポスター102), 企業展示132社でした。特に企業展示は開催1週間前まで出展希望が続き, 一部抄録を訂正しなければならないような状態でした。懇親会も「抱きしめたくなる声のジャズシンガー・シャンティ」を招いて, 参加者500名を超え, 震災の暗くなりがちな雰囲気吹き飛ばすような明るい会となりました。また, 市民公開講座も一般参加者136名を数え, インプラントに対する関心の高さを伺わせました。このような混乱状態をなんとか乗り切れ, 学術大会が開催できたのも, 堀田大会長の懐の深さと小委員会, 実行委員会の諸氏の努力, 山内六男専務理事や前田芳信学術委員長のアドバイスの賜物と思っております。この誌面をお借りして, 関係諸氏や学会員, 企業の皆様のご協力, ご支援に感謝するとともに心から御礼申し上げます。



センチュリーホール



懇親会風景

第42回 日本口腔インプラント学会学術大会のご案内

大会長 江藤隆徳
実行委員長 馬場俊輔

この度、第42回公益社団法人・日本口腔インプラント学会・学術大会を大阪の地で9月21日(金)・22日(土)・23日(日)の3日間、大阪国際会議場で開催することになりました。

メインテーマとして『インプラント患者目線での安心医療とは』を掲げ、国民の目線からのインプラント治療に対する安心について考える学会にしたいと思います。

これまで、インプラント治療における安全をテーマに我々医療従事者の立場で会員の皆様とともに考えてまいりましたが、立場の異なる患者目線での安心とは如何なるものであり、どのようなプロセスで獲得していくことが望まれるかということ、安全・安心シリーズの集大成として考えてまいりたいと思います。

大変な大所帯となった当学会の会員の皆様に対する国民目線を検証する良い機会にしたいと考えております。

プログラムについては、特別講演、基調講演、教育講演、ワールドサテライトセミナー、各種委員会主導のシンポジウム、ドイツインプラント学会との交流、国際セッション、若手インプラントロジストのためのワークショップ、女性インプラントロジストセミナー、医療従事者セミナー、関

連学会シンポジウム、各種セミナー、専門医教育講座、専門歯科衛生士教育講座、専門歯科技工士教育講座、テーブルクリニック、ランチョンセミナー、ケースプレゼンテーション、市民公開講座等々を予定しています。前回学術大会で好評でした「若手インプラントロジストのためのワークショップ」や「臨床の疑問に答える」以外にも、若手の先生やインプラント治療をこれから始めようとされている先生にも興味を持っていただける企画を盛り沢山用意しております。

本学術大会が参加者の皆様にとって実り多いものになるよう実行委員ともども最大限努力いたしますので、是非とも多数の参加をお待ちしております。



大阪国際会議場

第42回 日本口腔インプラント学会学術大会

日 時：2012年9月21日(金)～23日(日)
場 所：大阪国際会議場
大 会 長：江藤隆徳(公益社団法人日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部、大阪歯科大学臨床教授)
準備委員長：馬場俊輔(大阪歯科大学附属病院口腔インプラント科教授)
演題募集期間：2012年1月11日～5月14日
事前参加登録：2012年1月11日～8月6日

第41回 日本口腔インプラント学会学術大会受賞者紹介

優秀研究発表賞

十河基文 (大阪大学歯学部歯科補綴学第二教室)
「CTデータから金属アーティファクトを除去する再構成法の開発」

木村 裕 (東京歯科大学口腔科学研究センター)
「ジルコニアと純チタンディスク上で培養した口腔上皮細胞の初期接着」

石田雄一 (徳島大学大学院HBS研究部口腔顎顔面補綴学分野)
「インプラント暫間上部構造による最終上部構造の推定：前装部破損と隣接面コンタクトの離開」

松尾 朗 (東京医科大学医学部口腔外科学分野)
「ビスホスホネート投与日本人乳癌患者におけるインプラント治療に関する臨床的研究」

デンツプライ賞

山内健介 (九州歯科大学顎顔面外科学講座形態機能再建学分野)
「形状記憶合金メッシュを用いた骨膜伸展骨形成法の検討」

山西康文 (大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴学第一教室)
「アバットメント連結様式の差異がアバットメントスクリューと周囲骨に及ぼす力学的影響の解析」

土永浩史 (東京医科歯科大学歯学部顎顔面外科学分野)
「細菌検査を用いたインプラント治療の予後評価に関する後ろ向き症例集積研究」

佐々木穂高 (東京歯科大学口腔インプラント学講座)
「閉経後女性における骨代謝マーカー検査とインプラント周囲骨吸収の比較検討」

名誉会員紹介



磯貝昌彦先生

朝日大学 客員教授
磯貝歯科医院 院長

学会資格

日本歯科インプラント学会 正会員
日本歯科インプラント学会 認定医
日本口腔インプラント学会 専門医
日本口腔インプラント学会 終身指導医

学会活動

日本歯科インプラント学会 常任理事, 理事
日本口腔インプラント学会 常任理事, 理事
日本口腔インプラント学会 指名常任理事, 理事
日本口腔インプラント学会本部総務委員会委員
日本口腔インプラント学会本部編集委員会委員
日本口腔インプラント学会 中部支部 支部長
第21回日本口腔インプラント学会学術大会大

1936年8月2日生まれ
大阪歯科大学卒業

職歴等

愛知学院大学 助手 (口腔外科学)
愛知学院大学 講師 (口腔外科学)
東京歯科大学 歯学博士
岐阜歯科大学 助教授 (口腔外科学)
朝日大学 助教授 (歯学部口腔外科学)

会長
日本口腔インプラント学会 中部支部 理事
日本口腔インプラント学会 中部支部 顧問

受賞歴

日本口腔インプラント学会 学会特別賞



畑 好昭先生

1937年2月25日生まれ

職歴等

日本歯科大学卒業
日本歯科大学(歯学博士)
日本歯科大学新潟歯学部教授(歯科補綴学第2講座)
日本歯科大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会理事
日本口腔インプラント学会理事
日本口腔インプラント学会指導医
第36回日本口腔インプラント学会学術大会大会長

平成23年度 表彰者紹介

学会特別論文賞



山上哲賢先生

1939年1月1日生まれ
大阪歯科大学 1963年卒

職歴

大阪歯科大学助手 1963年(歯科理工学講座)
歯学博士授与 1968年
大阪歯科大学講師(歯科理工学講座) 1968年
大阪歯科大学助教授 1973年
山上歯科診療所開業 1973年～
京都インプラント研究所所長 1981年～
大阪歯科大学非常勤講師 1973年～2002年
岡山大学大学院医歯薬総合研究科非常勤講師(生体材料学) 1992年～2010年
新潟大学歯学部非常勤講師 1997～2004年
日本歯科医学会評議員

オーストラリアインプラント学会名誉会員

学会活動

1991～1994年 (一般臨床医)被選挙理事
1994～1997年 (近畿・北陸支部)理事
1997～2000年 (近畿・北陸支部)理事
2000～2003年 常任理事(近畿・北陸支部)
理事
2001～2003年 副会長
2003～2005年 副会長
2005～2009年 (法人)理事

支部長歴

1994～1997年 近畿・北陸支部支部長

評議員歴

1987～2009年

本部委員会委員長歴

2005～2007年 表彰委員会委員長
2007～2009年 専門歯科技工士委員会委員長

その他

1994年 第14回近畿・北陸支部総会大会長
2007年 デンツプライ賞受賞

2007年 日本口腔インプラント学会特別功労
賞受賞
2011年 日本口腔インプラント学会特別論文
賞受賞



三嶋 顕先生

1944年2月5日生

学歴

1969年 日本歯科大学卒業
70年 北海道大学歯学部口腔外科学教室入局
73年 北海道大学歯学部第Ⅱ補綴学教室入局
75年 山口大学口腔外科研究生
77年 日本歯科大学歯学博士授与

職歴

1974年 三嶋歯科医院開院(岩見沢市)
87年 医療法人柏葉会三嶋歯科医院設立(理
事長)

学会活動等

北海道医療大学歯学部臨床教授
北海道大学歯学部非常勤講師
日本口腔インプラント学会理事
(社)日本口腔インプラント学会評議員
(社)日本口腔インプラント学会東北・北海道支
部副支部長
公益社団法人日本口腔インプラント学会代議員
公益社団法人日本口腔インプラント学会学会特
別賞
日本歯科先端技術研究所北海道地区支部長
日本補綴歯科学会評議員
日本歯科医療管理学会常務理事
日本歯科医療福祉学会評議員
日本有病者歯科医療学会評議員
(社)日本顎顔面インプラント学会評議員
国際歯科学士会地区担当理事

北日本口腔インプラント研究会会長
文部科学大臣表彰受賞

学会奨励論文賞



山田将博
東京歯科大学
有床義歯補綴学講座

論文名：「コラーゲン創被覆用スポンジによる
培養骨芽細胞のアポトーシス誘導および機能
障害とN-アセチルシステインによるその改善」

この度は平成23年度学会奨励論文賞にご選出
いただき、大変光栄に存じ、心より感謝申し上げ
ます。また、ご選考いただきました諸先生方には
改めて深謝いたします。

本論文は、抜歯窩に填入される市販の創傷被
覆用コラーゲンスポンジに対する骨芽細胞の反応
性が、抗酸化アミノ酸誘導体をスポンジに含有さ
せるという簡便な方法で、著しく向上することを
細胞生物学的に示しました。このアミノ酸誘導体
はサプリメントに配合されているアミノ酸であり、
その安全性は確認されています。比較的廉価で応
用可能です。また、単純な小分子化合物であるた
め、製品として製造販売した際、その品質管理は
比較的容易であることも推察されます。この技術
を臨床応用することにより、抜歯後の歯槽骨の吸
収を抑え、その結果、その後の骨造成の必要性の
軽減やインプラント治療の適応拡大と安全性向上、
インプラント補綴の成功率の向上が期待できます。
インプラント学発展への寄与の可能性や骨再生科
学と抗酸化医学を有機的に組み合わせた研究上の
着眼点の斬新さ、生体材料科学全般への応用の潜
在性を評価いただいたと理解しております。

この抗酸化アミノ酸誘導体は、骨芽細胞の分化
を促進し、骨再生を直接的に促進する機能をも有
しており、その研究成果は、平成22年度日本口
腔インプラント学会優秀研究発表賞を賜りました。
それだけでなく、骨増生術後の懸念事項である創
感染に対する予防効果を有し、その研究成果は高

名な生体材料分野の英科学雑誌で紹介されております (Yamada M, et al. Biomaterials. 2011 Nov ; 32 (33) : 8474 ~ 85)。抗酸化アミノ酸誘導体が有する骨再生のための多機能性に関して継続的に研究を進めております。

今回受賞させていただきましたことを励みに、研究成果の一日でも早い臨床応用を実現し、インプラント学のさらなる発展ならびに国民の健康増進に少しでも寄与できるように研鑽を積んでいく所存でございます。最後に、本研究はアメリカUCLAワイントロープセンター骨・インプラント(LBIS)研究チーム主任・小川隆広教授および東京歯科大学有床義歯補綴学講座・櫻井 薫教授のご指導の賜物であることを加え、この場を借りて深く感謝申し上げます。そして、本学会の諸先生の皆様には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



山田麻衣子
日本歯科大学附属病院
インプラント診療センター

論文名「上顎骨犬歯部領域のCTによる骨形態の検討」

この度は、平成23年度公益社団法人日本口腔インプラント学会学術奨励論文賞を受賞させていただきました。誠にありがとうございます。御選考いただきました先生方に、心より感謝申し上げます。

解剖学的制約を受ける上顎のインプラント治療においては、十分な骨量を得ることが困難なことが多く、本論文の検討対象である犬歯部領域(上顎洞前端から梨状口までの領域)には、歯の喪失による歯槽骨吸収後も比較的骨が存在することが多く、インプラント体の埋入部位として日々の臨床で利用されています。

本論文では、インプラント治療を希望した患者の術前のCTデータをもとに、前鼻棘より上方8mmの範囲の犬歯部領域の骨形態の検討を行い、その形態解析と犬歯部領域の後方に位置する上顎

洞との関係について報告いたしました。

本検討より、1.前鼻棘より上方の犬歯部領域では、上方へ行くほど骨量が得にくく、また女性は男性に比べ有意に小さいこと。2.前鼻棘より上方の犬歯部領域では、有歯顎と無歯顎に有意差は認められず歯の喪失後も骨量に変化がないこと。3.上顎洞前端の立ち上がりは第二小臼歯部相当が多く、上顎洞の形態は逆台形が多いことを示すことが出来ました。

今回いただきましたこの受賞を励みに、これからも臨床や研究に精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、本論文の作成にあたり、インプラント診療センター 高森 等教授をはじめ、ご高閲くださいました歯科放射線学講座 代居 敬教授、終始ご指導くださいました発生・再生医科学講座 井出 吉昭講師、ならびにご協力いただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

優秀研究発表賞



高橋 哲
九州歯科大学
口腔顎顔面外科学講座
形態機能再建学分野

演題名「隔壁を有する上顎洞における上顎洞底挙上術の臨床的検討」

この度は、平成23年度学会優秀研究発表賞を賜り、大変名誉ある賞に光栄に存じますとともに、御選考いただきました先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。本研究は上顎洞底挙上術(サイナスリフト)に焦点をあてたものです。上顎洞挙上術はもっともエビデンスのある骨造成法の一つとされ、歯槽頂から上顎洞底までの垂直的高さの不足症例では日常臨床でよく行われている方法ですが、上顎洞内の隔壁(梁壁)の存在は、術野の明示を困難にするのみならず洞粘膜の裂開を来しやすいため難易度も高く、そのアプローチ方法も意見が分かれるところ。そこで本研究では隔壁を有する上顎洞18部位を調査対象とし、

隔壁の数、隔壁の高さ、骨窓の個数、粘膜穿孔の有無、合併症の有無について、臨床的および、パノラマX線、CT等画像診断学的に検討を加えました。その結果隔壁の数は1つのものが大多数でしたが、2～3個のものも散見されました。骨窓の形成は隔壁が1つのものでは隔壁の前後に2つ形成されているものがほとんどでありました。上顎洞粘膜の剥離を行う上で、直視が困難な症例では骨窓を1つにするか、隔壁を可及的に除去した例もみられました。骨増生量の平均は12.4 mmで、隔壁の数、骨窓の数と骨増生量との間に関連は認められませんでした。上顎洞の粘膜穿孔は18部位中5部位、27.8%で認められ、Single windowよりもdouble window形成例に穿孔が多い傾向が認められました。また穿孔部はいずれも吸収性メンブレンで閉鎖し、問題なくサイナスリフトが施行可能でした。粘膜穿孔と隔壁の除去の有無の関係をみると、粘膜穿孔5例のうち、4例は隔壁を完全に除去した症例で、有意に粘膜穿孔が多く認められました。以上の結果より、隔壁のアプローチはそれぞれの隔壁の部位、高さなどにより決定されますが、特に粘膜の剥離操作、隔壁の骨の除去操作などは慎重に行う必要があると考えられました。これらの研究結果は隔壁を有する上顎洞でのサイナスリフトを施行する際の骨窓の形成方法等について、安全で予知性の高い手術術式の確立に一助となるものと考えております。今後はさらに安全で確実なインプラントのための骨造成法の確立を目指し、日々精進する所存です。



阪本貴司
大阪口腔インプラント研究会

演題名「インプラント738本の生存率に関連する因子の検討」

最近注目されている8 mm以下の「ショートインプラント」が本当に臨床的に経過のよいものかを検討しました。本発表は2000年1月から以後8年間に渡って当施設で埋入した、表面粗造処理

の738本のインプラントの8年累積生存率の検討です。生存率から長さや径との関連、喫煙の有無、男女差などについて検討しました。生存率にはKaplan-Meier生存分析とLogrank検定を用い、有意水準は5%としました。

その結果、最も短い8.0 mmのショートインプラントは10 mm～12.5 mmと比較しても($P<0.05$)、13 mm～14 mmに比べても($P<0.01$)生存率は有意に低い結果となりました。直径では径3.25 mm～3.5 mmの細いインプラント体の生存率は、径4.0 mm～5.0 mmの太いものに比較して有意に低くなりました($P<0.01$)。注目して頂きたい結果は、8.0 mmのショートインプラントでも、径4.0 mm以上の太いインプラントでは生存率は高くなり、径が3.25 mm～3.5 mmの細いインプラントでも長さが13 mm以上のインプラントでは生存率は高くなったことです。

本発表の結論は、『短いインプラントでも一定以上の太さがなければ、その生存率は有意に低下する。短いインプラントを使用する際には太いインプラントを選択し、径の細いインプラントを使用する際には長いインプラントを選択することが有効である』としました。

8.0 mm以下のショートインプラントや細いインプラントでも生存率が劣らないとする考えは、いくつかの報告が根拠となっています。しかしこれらの論文では、我々の研究のような長さや太さの関連についての評価はなされていません。Dr.Maloらの2007年の発表では、238人408本のインプラントで7.0 mmのショートインプラントと8.5 mmのインプラントの生存率を比較しています。その結果5年累積生存率は7.0 mmが96.2%、8.5 mmが97.1%で、7.0 mmのショートインプラントは8.5 mmに比べても生存率は劣らないと報告しています(Clin Implant Dent Relat Res. 2007 Mar;9:15-21)。8.0 mm以下のショートインプラントでも生存率が劣らないとした有名な論文です。しかしよく読むと7.0 mmのショートインプラント131本中16本が径3.75 mmを使用し、115本は径4.0 mmを使用しています。8.5 mmのインプラントでも277本中75本が径3.75 mm、202本が径4.0 mmを使用しています。短さを太いインプラントを使ってカバーしているのです。自身が推奨している細い径の3.3 mmは1本も使用していません。

さらに直近の2011年には、径3.3 mmの細いインプラント247本の11年の生存率は95%であったと報告し、細いインプラントの有効性を発表しています (Clin Implant Dent Relat. 2011 Jun; 13 95-103)。しかし使用した細い径3.3 mm 247本はすべて10 mm～15 mmの長さのインプラントが使用されています。細い分を長いインプラントを使用して補っていることがわかります。Dr.Malo自身が推奨している8.0 mm以下のショートインプラントは1本も使用していません。これらの使用インプラント体の長さは論文の要約 (Summary) には記載されず、本文を隅々まで読まなくてはわかりません。彼らも我々の研究結果と同じく、長さ太さの関連を認めて、安全なサイズの太さと長さを選択しているのです。ショートインプラントについては、論文の都合の良い部分だけが抜粋されているように感じています。

ショートインプラントが8 mm以下と定義されたのは2004年のEAO会議以降です。まだ6～7年の歴史しかなく、ショートインプラントの長期経過は、まだ未確定です。しかし我々には、もっと昔から短いインプラントを使用するときには太いサイズを使用し、細いインプラントではできるだけ長いインプラントを選択して骨との接触面積を増やしてきた歴史があります。本発表の結果は、それらの過去の臨床医のインプラントの選択基準が間違っていないことの証明でもあります。

最後に『優秀研究発表賞』を受賞し光栄に思います。関係者の方への感謝と共に、本発表が会員の皆様にとって少しでも役に立つことを願っています。ありがとうございます。



宮原宇将
東京医科歯科大学
大学院医歯学総合研究科
インプラント口腔再生医学分野

演題名「新規GBRナノゲルクロスリンクングメンブレン—ラット頭蓋骨欠損モデルにおけるドライタイプとウェットタイプの骨治癒比較評価—」

この度、第40回日本口腔インプラント学会学

術大会にて優秀研究発表賞を賜り大変光栄に存じます。大学院最終学年時に研究の集大成を発表させていただき、それを評価していただいたこと、選考いただきました諸先生方、会員の先生方に改めて深謝いたします。演題内容の概略ですが、インプラント埋入時にその部位の骨量が不足している場合GBR法を用いることがあります (Dahlin et al.1988)。一方、疎水化多糖が自己組織的に形成するナノサイズの高分子ゲル (ナノゲル) が分子シャペロンと類似の機能を発現し、タンパク質の安定化や再生システムとして有効であることが明らかにされてきています (fig.1) (Akiyoshi et al. 1993)。このナノゲルをGBRメンブレンに応用出来ないかと考えたのが研究の発端です。ナノゲルは分子シャペロン機能を有するドラッグデリバリーシステム (DDS) のナノキャリアーとしても有用であり、様々な医療材料への応用を目的として、研究が進められています。我々は、新規GBRナノゲルクロスリンクングメンブレン (ウェットタイプ) がラット頭蓋骨欠損モデルにおいて、GBRメンブレンとして有効であると確認し報告しました (Academy of Osseointegration 25th Anniversary Meeting, Orlando, FL, USA, 2010) が、ウェットタイプの問題点として、保存期間、保存状態が問題となってきます。本実験では改良を加えたGBR用ナノゲルクロスリンクングメンブレン (ドライタイプ) が従来のウェットタイプ、コーゲンメンブレン、コントロール (未処置) と比較し、放射線学的、組織学的に評価し、GBRメンブレンとして有効と示唆したものです。現在、私はTomas Albrektsson先生、Peter Thomsen先生、Christer Dahlin先生が所属するDepartment of Biomaterials, Sahlgrenska Academy at University of Gothenburg, Swedenで研究を続けています。ナノゲルメンブレンの臨床応用に向けて京都大学 工学研究科 高分子化学専攻、イェテボリ大学 バイオマテリアル分野、東京医科歯科大学インプラント口腔再生医学分野の3つの大学による共同研究が始まりました (fig.2)。授賞式は都合がつかず共同研究者の永山友子先生に出席していただきました。末筆ながら、本研究の機会を与えて下さり終始ご懇篤な指導と校閲を賜りました、東京医科歯科大学 インプラント口腔再生医学分野 教授 春日井 昇平 先生、京都大学 工学研究科 高分子化学専攻 教授 秋吉 一成 先生、研究を手伝って

くださった東京医科歯科大学 有機材料学分野 下田 麻子 様, 口腔解剖学第一講座 山本 利光 先生, インプラント口腔再生医学分野 Myat Nyan先生, Jia Hao先生, Reena Rodriguez先生, Warunee Pluemsakunthai先生, Maria Ines Ehara先生, 清水勇気先生, 鬼原英道先生, そして関係者各位に心より御礼申し上げます。

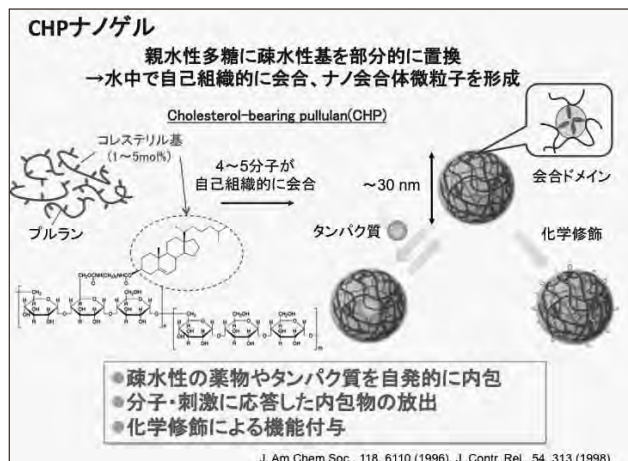


Fig.1 分子シャペロン機能を有するドラッグデリバリーシステム (DDS)

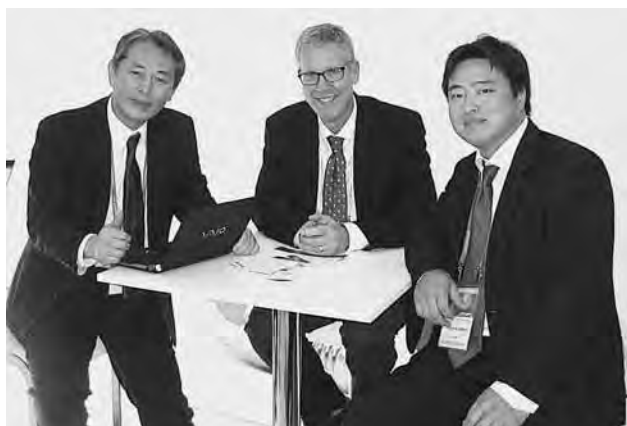


Fig.2 European Association for Osseointegration 20th Annual Scientific Meeting October 12-15, 2011, Athensにて (左より春日井先生, C. Dahlin先生, 筆者)



笈田育尚
 岡山大学大学院
 医歯薬学総合研究科
 インプラント再生補綴学分野

演題名：「ヘパリン結合活性を増強した大腸菌由来改良型BMP-2を用いた骨形成能を有する口腔インプラントの開発」

この度は、第40回日本口腔インプラント学会大会優秀研究発表賞を賜り大変光栄に思い、心より感謝を申し上げます。

Bone morphogenetic protein-2 (BMP-2) は強力な骨形成能を有するタンパク質であり、BMP-2を用いた骨再生医療は最も有望な方法と期待され、欧米においてすでに臨床の場で応用されはじめています。しかし、現在のBMP-2はヒトや大型動物において安定した効果が得られない場合があるとの報告があり、その原因の1つとして、局所停滞性が低くBMP-2が投与部位から拡散してしまうことが挙げられます。そのため安定した効果を得るには大量のBMP-2が必要となり、大量投与による副作用の問題、またコストが非常に高くなることから一般に広く普及するには至っていません。そこで我々は、局所停滞性向上のため、ヘパリン結合活性を強化した改良型変異体であるリコンビナントヒトBMP-2 (rhBMP-2 T4) を、大腸菌発現系で産生することに成功しました。そしてこのrhBMP-2 T4は *in vitro* において従来の大腸菌由来rhBMP-2と同程度の骨芽細胞分化促進作用を有しますが、*in vivo* において従来 rhBMP-2 と比べ高い局所停滞能、異所性骨形成能を有することを確認しました。つまり、我々が開発したrhBMP-2 T4を用いた骨再生療法は低容量で確実に骨再生が可能な大変有望な骨再生医療の一つであり、今後は臨床応用に向けた大型動物での研究を進めていく所存です。

また、今回の受賞させていただいたことを励みに、今後ますます研究に勤しみ、歯科臨床に安心安全で質の高い医療を目指し、国民の健康に寄与できるよう取り組んでいきたいと思う次第であります。

最後に、本研究は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野、窪木拓男教授の指導のもと、大野充昭助教、トーマスジェファソン大学下野賢吾先生をはじめ当教室の先生方、また共同研究先である株式会社オステオファーマ洲鎌和茂様、ウルツブルグ大学シーバルト教授に多大なご協力を頂きました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

デンツプライ賞



野本秀材
野本歯科医院
東京慈恵会医科大学化学教室

演題名「電子顕微鏡による骨補填材を充填した部位の組織学的観察法」

この度は、第40回日本口腔インプラント学会学術大会において名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただき、心より感謝申し上げます。今回の発表は以前の研究で、ヒトにおける抜歯窩の骨の再生状態を簡易的な走査型電子顕微鏡を用いて形態的な観察および元素分析を行い、骨内血管の再生状況、骨補填材の吸収状況、および骨の形態的な再生状態を本会で報告した研究の継続となるものです。本研究の目的は抜歯窩の再生状態を形態的、組織学的に経時的な変化を観察することで、インプラントの埋入に適切な時期を調べることにあります。抜歯時に β -TCP、コラーゲンを抜歯窩に単一で充填した抜歯後12週、16週、24週、32週経過のCase、抜歯後に骨補填材を使用しない24週後のCaseで骨を採取し調べてみました。骨形成の過程はコラーゲンを充填したものと β -TCPを充填したものでは走査型電子顕微鏡で観察すると骨の再生過程で形態的な違いが認められました。また、組織学的な再生所見の違いも認められました。コラーゲンを充填したものは補填材を使用しないものと同様な再生形態と組織学的所見が認められました。これは、コラーゲンが早い時期に吸収して、骨補填材を充填しないものと同様な骨再生をたどることが示されました。 β -TCPを充填したCaseでは充填後、24週経過しても β -TCPの50%は吸収していないため、骨再生のスペースメイキングとスキャホールドとしての役割を果たしていることがわかりました。また、今回 β -TCP充填後16週でインプラントは十分なトルクで埋入することが可能であったことにより、今後のインプラント埋入時期の決定の指標にできる可能性が示唆されました。近年、インプ

ラント治療は、その適応範囲が増えてきています。骨の幅や高さが十分でないケースも多く、インプラント埋入予定部位では、抜歯窩保存術(socket preservation)やGBR(guided bone regeneration)など、抜歯直後に骨補填材を充填して、骨の吸収を抑える手法が行われています。しかしながら、骨の再生状態を迅速に評価する方法はX線写真等に限られており、組織学的な評価を迅速に行うことは難しく、骨補填材で充填された部位の骨の再生状態を経時的に評価した指標は少ないのが現状です。今後はさらに研究を積み上げていき、安心安全なインプラント治療に貢献できるように精進していきたいと考えています。最後に、研究に際し、ご指導いただきました東京慈恵会医科大学化学教室大川 清教授、中央検査部松浦知和准教授に深く感謝申し上げます。



戸田伊紀
大阪歯科大学解剖学講座

演題名「抜歯窩における β -リン酸三カルシウム小顆粒の新生骨形成と吸収」

この度、第40回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただき、大変光栄なことであり、心より感謝申し上げます。また、御選考くださいました先生方、学会の皆様方には心より感謝申し上げます。

インプラント施術に必要な骨量を確保するために、臨床では多くの骨補填材が応用されています。中でもリン酸三カルシウム(β -TCP)は吸収性骨補填材として着目されています。 β -TCPは生体内で吸収され、新生骨に置換していくとされていますが、吸収の時期については諸説があります。本研究では、顆粒の粒径が小さい場合、顆粒の表面積が大きくなり吸収も早くなると考え、粒径50~150 μ mの β -TCP小顆粒を実験動物の抜歯窩に填入し、その後の新生骨形成と顆粒の吸収について、無填入の対照と比較しながら観察し調査し

たしました。 β -TCP小顆粒を填入した抜歯窩も対照の抜歯窩も、術後2週から新生骨形成が開始され、経過的に新生骨が抜歯窩を満たすようになっていきましたが、 β -TCP小顆粒は術後16週でもわずかに残存することが判明しました。また画像解析に基づく新生骨面積比から、どちらの抜歯窩でも経過的に新生骨面積比の増加を認めました。しかしながら、各週で比較すると対照群の方が実験群よりも新生骨面積比はやや高くなっていました。すなわち、 β -TCP小顆粒を填入した抜歯窩は対照の抜歯窩と比べ、新生骨形成が遅れる傾向を示しました。これは、顆粒の粒径が小さいことが顆粒の密集となり、顆粒間隙が狭くなった結果、顆粒間隙への血管新生が遅れ、その遅れに伴って新生骨形成が遅れたと考えられます。したがって臨床に応用する場合には、骨補填材には適度な顆粒間隙が必要と考えられます。今後は、さらに顆粒状骨補填材の顆粒径と間隙との関係について調査し、臨床応用の一助となればと思っております。

最後に、今回の受賞は、本研究をご指導いただきました本学解剖学講座の諏訪文彦教授をはじめ、解剖学講座の諸先生方のご指導とご協力の賜であると思っております。この場をお借りして皆様に心より深く感謝申し上げます。また材料を提供いただいた日本メディカルマテリアル株式会社の吉原雄祐氏にもこの場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。



渡邊 武
東京医科歯科大学歯学部附属病院
回復系診療科インプラント外来

演題名「上顎洞外側壁の後上歯槽動脈 (PSAA) の分布」

この度は、第40回日本口腔インプラント学会デンツプライ賞を受賞させていただき、大変光栄に存じ、心より感謝申し上げます。また、御選考いただきました諸先生方、学会の皆様方には改めて深謝いたします。

今回の研究テーマの「上顎洞外側壁の後上歯槽

動脈 (PSAA) の分布」は、近年多用されているサイナスリフト法における偶発症の発生を防止するための一環として考慮したものであります。2006年10月から2010年2月までに東京医科歯科大学付属病院インプラント外来に来院しインプラント治療を希望してX線CT撮影を行った症例のうち、上顎臼歯部に連続3歯以上の欠損を有する108名、147側を対象として行いました。X線CT頬舌断再構築画像上で、PSAAの検出率、PSAAの長径、PSAAと上顎洞底間の距離(表1)、PSAAと顎骨頂間の距離(表2)の4項目を計測しました。PSAAの検出率は12.24~36.05%でありCT画像を用いた他の報告の30~50%に比べると比較的低い値でした。しかし、従来には検出率が10.5%という報告もありCT画像による検出率は必ずしも高くはないことが理解できました。PSAAと上顎洞底間の距離の場合、第二小臼歯部と第二大臼歯部の間以外は有意差が認められず、上顎洞底の位置を基準とした場合にはほぼ同じ高さに位置することが示唆されました。PSAAと顎骨頂間の距離の場合、小臼歯部間と大臼歯部間以外は全て有意差が認められ、顎骨頂の位置を基準にした場合には小臼歯部と大臼歯部の間では差があることが示唆されました。

今後は欠損形態の違いとPSAAの位置に関して検証を行う予定です。

最後に、本研究を行う上で非常にご多忙にも関わらず終始にわたり懇切なるご指導をいただいた春日井昇平教授に、そして塩田 真准教授、立川敬子講師ならびに東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学教室の諸先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

表1 PSAAと上顎洞底間の距離

	P1	P2	M1	M2
	10.6mm	12.2mm	10.1mm	7.48mm
標準偏差	4.8	6.6	5.3	4.8

表2 PSAAと顎骨頂間の距離

	P1	P2	M1	M2
	23.1mm	21.4mm	16.9mm	15.7mm
標準偏差	5.5	4.9	6.0	5.8



岡田常司
東京医科歯科大学歯学部附属病院
回復系診療科インプラント外来

演題名「 β -TCPを用いた上顎洞底挙上術の経時的体積変化の観察—歯科用コーンビームCTによる分析—」

この度は、第41回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、名誉あるデンツプライ賞を受賞させて頂きまして大変光栄に存じます。

本研究では、近年技術革新のめざましいCBCTを利用してX線学的に経時的な体積変化を観察し、同時に単独 β -TCPによる上顎洞底挙上術の予後を臨床的・組織学的に検討しました。

私が入局した東京医科歯科大学インプラント科創設時の1996年頃は術前のX線学的診断は医用CTが主でありまた求められる情報もフィルム画像でしたが、その後2001年に被曝線量の低さを売りにした歯科用CBCTが開発されました。CBCTは空間分解能が高く様々な測定機能を有しており今回の演題である体積変化にも応用可能でした。

上顎洞底挙上術は1996年Sinus Consensus Conferenceで予知性の高い方法であることが結論づけられ、1998年のメタ・アナリシスでは各種材料間の有意差を認めませんでした。1996年当時、当科では移植材料としての自家骨(腸骨)を採取していたため術者及び患者様の負担は大きい

ものでしたが、これに対し近年我々は骨補填材として β -TCPを用い良好な結果を得ています。骨補填材料はドナーサイトを必要としないため臨床的なメリットが大きい反面、 β -TCPの予知性についてはまだ不明な点が多いのが現状です。

本研究では上顎洞底までの骨量が5mm未満の20症例に対し β -TCP単独による上顎洞底挙上術およびインプラントの同時埋入を行い、6カ月の治癒期間において二次手術から補綴処置へ移行しました。CBCTでの分析では β -TCPは術後6カ月においても既存骨との区別が可能であり、体積変化は術直後に比べ全症例で平均約27%の減少がみられました。さらに術後6カ月から1年かけても減少する傾向があり、 β -TCPの吸収速度と新生骨形成速度を考慮し、荷重時期や補填材の量を検討する必要があると考えられました。

二次手術時の生検による組織学的分析では β -TCPは残存しているものの、顆粒に接して骨細胞様及び骨芽細胞様細胞を伴う新生骨形成が観察されました。術後6カ月に比べ、1年経過症例の方が β -TCPの新生骨への置換は促進されました。このことは以前の β -TCPによる報告に類似しており、これらの結果から β -TCPは上顎洞底挙上術の骨補填材料として有望であるが、分解されるのに1年程度はかかることが予測されました。

本研究は現在も継続中であり今後も臨床医の視点から患者様に貢献していきたいと思っております。

最後に本研究にご指導いただきました春日井昇平教授、塩田 真准教授、立川敬子講師、宗像源博助教、インプラント科の先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

AAID (American Academy of Implant Dentistry)

第60回 年次総会参加記

愛知学院大学歯学部 冠・橋義歯学講座・口腔インプラント科
塚本信隆

2011年10月19日から22日までの4日間、ネバダ州・ラスベガス・シーザースパレスで第60回アメリカ合衆国歯科インプラント学会(AAID)が開催されました。参加者数は2,000人以上と発

表され、業者出展数は220を超えていました。私は今回ポスター発表のため参加しました。私とAAIDとの関わりは1998年、カリフォルニア州ロサンダ大学歯学部インプラント科留学に遡りま

す。後の2008年、AAID会長となったJaime L. Lozada教授の下で1年間仕事をしました。当時はDr.Kanらの手術も手伝いました。以来3年に1度の学会発表を心掛け、今回で4回目の発表となりました。

ここで少しAAIDについて紹介させていただきます。AAIDは1951年に創設され、世界最初の歯科インプラントに関する学会といわれています。それゆえ往年のインプラントロジストにもなじみ深い先生方が歴代会長を務めておられます。1974年の会長はブレードインプラントを世に広めたLeonard I. Linkow先生です。このLinkow先生と故・乙部朱門先生とは特に交流が深く、その人脈が現在まで日本のインプラント界に脈々と続いていると伺っています。近いところでは1993年にCarl E Misch先生が会長を務めておられます。AAIDもさすがに今ではオステオインテグレートド・インプラントが主流ですが、歴史ある学会といえます。また、AAIDは研究・教育にも力を注いでいます。過去にAAIDから研究助成金を受け取った研究者名簿にはUCLAの西村一郎先生のお名前もあります。教育面では専門医の養成を通してアメリカでの専門医制度確立に尽力しています。フロリダ州、カリフォルニア州では裁判所からその専門医の信頼性が認められ、公衆に対し広告を出してもよいという判決を得ています。このAAIDの専門医試験には毎年のように日本人歯科医師も合格しており、合格された先生方は日米あるいはアジア圏とのインプラント界の懸け橋となって活躍されています。

さて、学会では各国から招待されたゲストスピーカーによるメイン会場での(持ち時間約1時間)口演を軸に数々の発表等が行われました。主だったプログラムの終了時にはコーディネーターが発表され、参加者はそれを参加証明書に書き留めて提出しなければなりません。また、各スピーカーの評価表の提出も要求されます。別途料金の掛かるワークショップ、クリニカルラウンドテーブルも同時に行われました。ライブ手術は手術室と学会場をインターネットで接続し、学会場のモデレーターを介して直接質問を受け付ける形式で行われました。スタッフ向けのプログラムも用意されていました。とくに今回印象的だったのはスペイン語から英語への翻訳が付く口演が多く用意されていたことです。これはAAIDがメキシコ、ス

ペイン、ラテンアメリカの国々といったスペイン語圏との結びつきを強めようとしている意図の現れと考えられます。一般参加者の発表はポスター発表とテーブルクリニックですが、これには審査員が付き、1位、2位、3位を決定し、表彰し賞金が贈られました。メインプログラムの開始は朝8時ですが、毎朝コンチネンタル・ブレックファースト(大体マフィンとコーヒー)は7時から用意されています。とにかく朝が早いです。

19日は夕刻からホテルのプールサイドでウェルカム・レセプションが行われ、軽食と飲み物が振る舞われました。20日は参加者全員にランチボックスが用意され、21日夕刻にはワールドエキスポ・レセプションが行われました。22日のメインプログラムはお昼までで、午後は役員会、そして夕刻から深夜までプレジデントセレブレーションが行われました。同伴者参加のパーティーでは専門医試験合格者の発表とお祝いが行われました。ドレスコードの指定は特にありませんがタキシードとパーティードレスの女性が目立ちました。生バンドの演奏にあわせてのダンスタイムもありました。

来年のAAID第61回総会は2012年10月3日から6日にかけてワシントンDCで行われる予定です。



左から John Minichetti, DMD AAID 副会長, Nicholas Caplanis, DMD, MS AAID 次期会長, 筆者と妻の塚本由美, James L Bush, DDS AAID 会長, 堀田康記先生 JSOI 中部支部長, Shankar Iyer, DDS AAID MaxiCourse アジア支部長, 国際委員会委員長



日本から参加された先生がた

研修施設紹介

口腔インプラント生涯研修センター

施設長 田川 清

口腔インプラント生涯研修センターは故福与積夫博士が開発した形状記憶インプラントの集まりから始まった。それは1980年代初頭からで、当時は毎月勉強会を開催、全国から会員が集まった。

その後1985年に月1回のインプラントセミナーとして、毎月講師を招いて勉強会を開催した。これが現在続いているインプラントセミナーである。

その後、1992年11月29日に日本口腔インプラント学会指定研修施設(第351号)となり、2000年6月から田川 清が研修施設長となり現在に至っている。

内容的には、専門医を目指すベテランの先生と、これからインプラントを始めようという先生とともに受講するため難しい面もあるが、ベースはインプラント初心者を対象に講義内容を組み立てている。講師は大学で研究・教鞭をとっている先生と開業しながらインプラントを数多くこなしてきたベテランにお願いしている。

私は26年間ほとんどの講義を聞いてきたが、当然ながら大学の研究者の講義の方が優る。これは大学人は情報源が多く、研究時間にも優れているということだろう。一方これからインプラントをやる人にはベテランの開業医の話が大変役に立つ場合もある。細かい技術、失敗例も出てくるからである。受講する先生にできるだけ役に立つ講義内容を優先して組み立て、講義も前年と講義内容があまり変わらない講師は次回からはご遠慮いただくようにしている。私は講義内容を食堂のメニューと考えている。お客さんが食べておいしく、新鮮で、かつ体のためになるメニューをそろえるのが私の仕事である。

26年間の全受講者数は312名に上がり、初期のころの修了者からは、専門医・指導医が多数出ている。2011年11月現在のセンター所員は指導医3名、専門医16名、ケースプレゼンテーション試験合格者27名、研究員120名、合計165名の大世帯である。

これからは、初心者にはインプラント治療に対する基礎的な指導、ベテランには専門医、指導医

資格獲得へのサポートを積極的に行う。

2012年4月から第27期が定員20名で始まる。会場は名古屋市中区にあるセンター研修室で、名古屋駅からタクシーで約15分の近さである。

第26期から、今の若いドクターは土曜日が診療で忙しいとのことなので日曜日一日の講義にして12回にしたら、今度は交通費が高くつくとクレームが出た。東京から来る場合、回数が増えると旅費が高くつく。したがって1日の講義時間を長くした。すると今度は世話をする私がクタバリそうだけれど頑張っている。



愛知学院大学歯学部附属病院 口腔インプラント科診療部

施設長 村上 弘

愛知学院大学歯学部附属病院口腔インプラント科診療部は平成21年1月1日に開設されました。本科の前身である口腔インプラント外来、またさらにその前身である口腔インプラントチームは約8年の間、毎月第一月曜日に、放射線科、補綴科、口腔外科、歯周科、矯正歯科、技工部、衛生部など各科から参集した30数名の医員がカンファレンスを行い、一丸となって、チーム治療に当たって参りました。それらの実績が認められて開設されました。開設後も口腔インプラント科を中心に、各科のインプラント科兼任医(各科2~3名)、歯科衛生士、歯科技工士を含めて、30名以上で、毎月1回のカンファレンスと研修を行っています。研修は様々なメーカーのハンズオンや新情報、各医局員からの新知見、学会情報などの講義、実習です。現在、インプラント科診療部は附属病院の

南館5階に診療室と外来手術室があり、大規模な骨造成を伴うような手術は、西館手術室で行っております。

また、歯学部对学生に対しては、5年生前期に12回の講義と5日間(午前・午後)の実習を課しております。講義内容はインプラントの意義と目的、歴史の変遷、解剖学、診察、診断、適応症、インプラントと歯周病、画像診断の意義と目的、前処置の外科手技、埋入外科処置、上部構造の分類、術式、咬合、インプラントのための病理学、術後管理、倫理と社会性などです。実習内容はコンピューター上における三次元画像診断実習、模型上でのインプラント体埋入からスクリュー固定とセメント固定の暫間上部構造の製作までです。

また、卒後の勤務医や開業医向け(当大学の研究生、専攻生、非常勤医)には毎月第三木曜日に研修を行っております。研修内容は主に様々なメー

カーのハンズオンや新情報の提供、インプラント関連分野の講演などですが、症例相談や学会発表の相談にも乗っております。今後は、学生教育はもちろんですが、カンファレンスや研修会をさらに充実させ、系統的な卒前、卒後教育を構築する予定です。



東日本大震災における被災地への歯科医療従事者、検案参加者紹介

- ▼長崎大学病院口腔顎顔面インプラントセンター
黒木唯文, 柳本惣市, 尾立哲郎, 鳥巢哲朗,
鎌田幸治
 - ▼岩手医科大学附属病院歯科医療センター
口腔インプラント科
近藤尚知, 鬼原英道, 丸尾勝一郎
 - ▼日本インプラント臨床研究会
井汲憲治, 二木由峰
 - ▼日本歯科先端技術研究所
築瀬武史
 - ▼北海道医療大学歯学部クラウンブリッジ・イン
プラント補綴学分野
草野 薫, 松原秀樹
 - ▼昭和大学歯科病院
内田圭一郎
 - ▼ジャシド
小寺 修
 - ▼岐阜県歯科医師会
西脇孝彦
 - ▼九州インプラント研究会
重原 聡
 - ▼徳島大学歯学部附属病院インプラント診療部門
斎賀明彦
 - ▼香川県歯科医師会
樋出 誠
 - ▼大阪口腔インプラント研究会
阪本貴司
 - ▼インプラント専門歯科衛生士
入江 舞
 - ▼愛知県歯科医師会
小川直孝
 - ▼インプラント再建歯学研究会
定永健男
 - ▼京都府歯科医師会
伊熊直記
 - ▼京都府歯科医師会
安田久理人
 - ▼東北大学
依田信裕, 小山重人, 横山政宣, 重光竜二,
郡司良律, 藤川 亮, 山本未央, 小針啓司
 - ▼奈良県立医科大学口腔外科学講座
川島 渉
 - ▼日本大学歯学部附属病院
関 啓介
- (平成 23 年 9 月末現在 35 名)

身元確認作業に参加して

井汲憲治 (群馬県)

この度の大震災においては、被災地域内外の多くの歯科医師の先生方が身元確認作業に参加されました。しかし3,000名以上がいまだに不明であり、震災の大きさを思い知らされます。学会所属の者として、今回の身元確認の作業に参加した経験を記させていただきたいと思います。

2011年3月11日午後2時46分頃：地震発生。その後も一連の大地震が続き、震源地からかなり離れた群馬県でも大きな揺れに見舞われる。仙台の同窓生は、NHKで写し出される津波の中継から、仙台市中心部も津波にのまれるのではないかと大きな恐怖を感じたと語った。

3月18日：地震から七日後、仙台在住の息子と二人車で新潟経由で深夜に仙台に入る。通行人はおろか市内を走る車も皆無であったが、おびただしい数の巨大自衛隊車両のみが三陸方面へ向かって走行していた。今まで見たことのない異様な光景であった。

3月19日～21日：翌朝の市内は見かけ上は、ほとんど普段と変わらないような通勤風景であったが、物流がストップして食料品は不足、ガス、水道、ガソリンが復旧していないため、市民生活は不便を極めていた。東北大学歯学部では無傷の基礎棟2階を本部として佐々木啓一歯学部長が陣頭指揮にあたられていた。地震直後から歯学部スタッフが身元確認作業への人員派遣や施設の復旧に総力を挙げて取り組んでいた。

宮城県歯科医師会会館の損傷はほとんどなかった。しかし、沿岸部の交通は寸断されており、奥地での身元確認や歯科診療車の手配、そして、連絡のとれない沿岸部の会員の安否確認などに奔走していた。スタッフ達が避難者のためにと用意してくれていた口腔ケア用品を避難所に配る。

3月22日：東京から警察車両で派遣された先生方と県歯会館で合流し1時間のミーティングが開かれた。歯科医学会からは私を含めて5名(日歯大インプラント科の小倉晋先生他)、他15名は各都県歯から派遣された警察協力医の精鋭の先生方であり、20名のチームとなった(リーダーは山崎東京都歯科医師会副会長)。派遣予定の旧石巻青

果市場には約1,000名の遺体が待っているとのことである。

最大の被災地へ

3月23日：旧石巻青果市場に向かう。縦100m/横50m以上の寒く暗い巨大な屋内に、所せましとビニール袋にくるまれた遺体が並んでいる。すぐに2、3人のチームでデンタルチャートの記載にとりかかるが、砂が口の中に多量に入っており、それを取り除くことから始めなければならない。幸い小雪舞う気温であったため、遺体の臭いはきつくないのだが、ゴム手袋を通して伝わる遺体は氷のような冷たさであった。照明灯のディーゼルエンジンから出る微かに暖かい排気で手を温めた。

大学口腔外科の同窓生からメールがとどき、それまで安否がわからなかった石巻在住の両親と妹家族と無事会えたことを知らされ安堵する。

3月24日～27日：チーム全体で連日100体程の検視を行う。作業は自衛隊が遺体を搬入→県警と監察医で検視と写真撮影→DNA鑑定のための心臓血採取・指紋採取→歯科所見の記録の順で朝から夕方まで行われた。炭化した遺体や損傷の激しい遺体もあったが、多くは損傷が小さく顔の判別も比較的容易であった。

それでも、我々の作業のすぐ隣で、ある人はすすり泣き、遺体にすがり“ごめんねー”と繰り返す声を聞くと、いたたまれない気持ちになった。時に、子どもの検視は他の先生にお願いすることもあった。

大きな余震もあったが、27日にはチーム数名と昼食後に港まで歩いてみることにした。数日前まで水産業や商店で賑わっていたであろう市街地は、ことごとく流され鉄骨の残骸以外に何もなかった。松島基地は目と鼻の先にあり、低空を米海兵隊と自衛隊の大型ヘリコプターがひっきりなしに三陸方面に飛び立っていく。我々は戦争を知らない世代である。これは夢なのか現実か、はたまた戦争なのか…と不思議な感覚を覚えた。

3月28日：最後の作業を無事終えホテルに戻り、ささやかな慰労会を食堂でおこなう。最後まで暖房と水道・トイレが使えないままであったが、暖

かい食事を提供してくれたホテルのスタッフに感謝する。

この体験を通して、いつ起こるかわからない津波の危険が大きい中で、回収作業を黙々と続けていた自衛隊員そして警察官の懸命な働きには頭が下



がる思いでありました。そして、混乱の中、自ら被災者でありながら震災直後から、朝から晩まで頑張られていた宮城県歯・身元確認班の江澤敏光先生、柏崎 潤先生そして、佐々木教授をはじめ大学の各位から大事な何かを教えてもらいました。



平成23年度 ケースプレゼンテーション試験合格者

木谷憲輔,	花谷正信,	宮野貴彦,	加藤英治	田原秀起,	伊藤 剛,	宮本浩三,	大久保弘記
増田晃司,	久保達也,	松岡幸生,	尾澤昌悟	奈良井 聡,	佐藤浩史,	田ヶ原昭弘,	野原栄二
林 常敏,	安藤正明,	林 玄治,	豊福英市	富山雅浩,	青木 健,	榎本雅宏,	永井省二
松本康裕,	吉岡宣史朗,	中島幹雄,	岩下栄木	山内健司,	松香芳三,	芦澤 仁,	長谷川 慶
堤 三告子,	小澤 仁,	神野正人,	安藤壽勇	服部哲雄,	濱田正人,	難波圭司,	近藤かな子
村瀬雄一,	住田知樹,	相宮秀俊,	上野大輔	宮本郁也,	山本 愛,	林 昌二,	奥村 晃
田草川 徹,	大塚保光,	清水 圭,	森山幸一	蒔田哲也,	小森敦夫,	轟 紀五,	黒田泰志
伊藤康弘,	西方 淳,	益田秩帆,	佐々木 仁	金尾将人,	村田大輔,	渡具知 稔,	大門弘治
大前款嗣,	上山直紀,	山内健介,	上野温子	小宅宏史,	迫田竜二,	藤田貴史,	櫻井宏樹
山田真樹,	加藤麦夫,	沼 健博,	金子智子	伊丹宏之,	杉崎哲也,	安倍稔隆,	松成淳一
村田辰夫,	白数信明,	加藤清志,	大殿浩晃	文田清美,	宇野一雄,	早野博志,	渥美美穂子
今井守夫,	久保浩太郎,	片山莊太郎,	伊藤 理	高田 剛,	飯田倫太郎,	上村直也,	城所愛美
田家亮太郎,	田中禎彦,	中村直史,	鈴木伸洋	銭谷隆文,	大口直輝,	福井達也,	飯塚智彦
暮田 桃,	川端秀男,	宮井幸子,	中塚健介	渡邊 恵,	井田 篤,	早川裕記,	古屋克典
岡本好正,	増田一生,	神山洋介,	行木隼人	山田邦晶,	塚野寛久,	日浅 恭,	杉村佳洋
横井和弘,	加藤史輔,	中村秀範,	吉野 晃	濱本和彦,	多比良昭寛,	高井貞浩,	池田祐一
入江彰彦,	中川昌樹,	石田勝重,	伊東義雅	柴原清隆,	飯田太一,	高山賢一,	北村 豊
添野光洋,	加賀井 清,	古川尊寛,	内野文彦	遠藤 浩,	近藤祐介,	渡邊智典,	向井知理
濱田真人,	高木浩二,	山田嘉宏,	齐間広憲	小田貴士,	武山秀子,	安田雅章,	法月良江
佐久間 栄,	平田貴士,	宮前 真,	三宅一永	横上 智,	高場雅之,	尾崎隆海,	長田紀子
水木信之,	山本裕明,	中村智彰,	田中富貴子	香川良介,	丹羽 崇,	山上美樹,	向坊太郎
岩上正博,	扇 和洋,	新井 裕,	三富純一	吉田有智,	新藤 貴,	横矢重幸,	岩崎ひとみ
千葉美知子,	茶谷修平,	辻 浩洋,	小池知子	的野良就,	國竹活代,	田村 直,	高田匡基
木村洋子,	上條達央,	隅田 太,	南 清和	仲井太心,	田中治男,	池谷俊和,	新藤靖二郎
丸山啓介,	尾立哲郎,	宝崎岳彦,	片口宗久	郡 英寛,	相田 聡,	古谷義隆,	桑鶴利香
服部理志,	新井崇友,	太田晃子,	木村 彩	千葉大輔,	中本哲自,	河合良明,	宮本裕司
白神哲也,	佐々木成高,	齋藤琢也,	塚本浩樹	藤田温志,	妹尾吉訓		(合計：214名)

新入会者紹介

(平成23年6月8日～平成23年10月19日)

▼東北・北海道支部

(北海道) 上田奈々, 山岡義孝, 道原美保,
阿部文之, 富樫 信, 太田沙矢香, 村田浩明,
水柿伸郎, 近澤 慶, 高橋清江, 杉澤宗一郎,
飯淵義久, 笹本洋平
(岩手県) 千葉雅之, 杉浦 剛, 千葉悦子
(青森県) 渡邊千佳, 三上愛実
(宮城県) 兼田陽介, 鈴木 祐, 菅野照美,
柳川晃恵, 梁川正美, 佐藤秀樹
(秋田県) 山崎雅人, 大淵真彦, 吉副 毅,
長橋恒次
(山形県) 小山悠里, 足立識之, 三浦祐司
(福島県) 菊池直宏, 森川拓哉, 及川由夏,
門倉弘志

▼関東・甲信越支部

(茨城県) 池原つかさ, 高尾 顕
(栃木県) 中山竜司, 齋藤由昭
(群馬県) 駒形雄気, 佐藤嘉章, 佐藤千砂
(埼玉県) 鈴木崇夫, 三原俊介, 原佑里子,
吉川秀明, 岡部隆昌, 木塚盛仁, 川邊好弘,
北風新平, 清水麻斎子, 井関健太郎, 高澤淳仁,
石橋卓大, 片岡英里, 荒井香奈子, 江森 崇,
澤木勇樹, 栗田ゆかり, 馬場恵利子, 寺尾修一
(千葉県) 川口太郎, 佐々木章仁, 栗原正一郎,
宮原抄弓, 渡邊直子, 和田 健, 早川永晃,
松本浩一, 加藤純二, 横本満洋, 太田 緑,
小泉ちあき, 笹本祐馬, 澤田麗衣名, 山口秀紀,
大久保昌和, 宮本裕久, 田村大蔵, 神田雄紀,
吉田芳子, 鳥居康人, 平野博之, 杉山 健,
武田侑大, 日野麻衣子, 船木幹子, 赤坂順子,
中村武仁, 遠藤 章
(東京都) 戸辺健一郎, 竹内厚子, 高橋一太郎,
是澤和人, 古橋裕文, 五味義法, 岡本彩子,
鈴木寿和, 野木智代, 濱田泰治, 前田大樹,
金 柔晃, 三田 稔, 横山京介, 清野有貴,
永田浩司, 堀江 哲, 新藤健太郎, 大原誠司,
奥村 親, 奥村 曜, 濱窪洋平, 脇 智典,
本田雅規, 木崎ちひろ, 瀬長恵美, 富田大司,
小宮山修邦, 佐藤奈保子, 野田裕子, 早田麻由,
高橋美哉子, 雪嶋真吏, 野本恵子, 葎澤秀一郎,
山邊ひとみ, 篠田奈々, 角山明日香, 木下美咲,
金子浩一郎, 酒井拓郎, 浦野慎二郎, 石倉和明,
福江亮介, 鈴木章弘, 原口美穂子, 岸川隆蔵,

石渡正浩, 重富元徳, 米長淳子, 石川明子,
村上紀子, 浅谷佳秀, 丸山賢太郎, 溝口敦也,
千葉貴大, 筋野暢允, 酒井昭彦, 小堀成也,
山本昌広, 永峰雄二, 村田拓也, 田中博子
(神奈川県) 柳澤真貴子, 金 佑謙, 岡山章太郎,
河西一徳, 小林弘明, 佐々木綾子, 建守直樹,
藤井 毅, 菊地朋宏, 関根宜威, 西原圭二,
棚池亮太, 栗原峻平, 南沢炫宇, 金野哲也,
倉持昭一, 西塚 源, 徳留建二郎, 佐野裕介,
秋月 亮, 川崎雄一, 中村達哉, 藤崎邦子,
宇座成美, 井島喜弘, 山口 亮, 前川紀雄,
大嶋瑤子, 金 圭一, 吉川勇氣, 荒川秀樹,
武田真理子, 菊島大輔, 向山 仁, 中島勝也,
長谷川佑衣, 廣瀬 慧, 中山裕美, 河田 匠
(新潟県) 中島 優, 小川 信, 齋藤 功,
瀬野真由美, 芳地浩彰
(山梨県) 藤巻喜美子
(長野県) 高橋敏文, 栗田 浩, 中村典正,
宮沢利恵

▼中部支部

(岐阜県) 伊藤沙妃
(静岡県) 谷渡綾希子, 松山康正, 菊池泰斗,
村岡鉄平, 清水祐輔
(愛知県) 原田 純, 近藤貴俊, 池田大恵,
池戸泉美, 小菅 哲, 加藤世太, 作 陽子,
小野田俊介, 山田文絵, 山下希美, 佐藤泰裕,
横江 誠, 高濱 豊, 中野 真, 林 建佑,
長尾小春, 鈴木崇由, 浅岡 剛

▼近畿・北陸支部

(富山県) 樋口常保, 中沖一人, 山脇敏裕,
滝川佑一, 渡辺 充
(福井県) 中本大介, 松岡督明
(滋賀県) 天野恵美子, 乾琢 眞, 川井泰葉,
大上啓輔
(京都府) 堀 まりか, 曾川浩二, 藤木悠里,
松原摩依, 森 由季, 小笹喜彦
(大阪府) 稲田欽彦, 岡田貴文, 西川哲成,
江草 宏, 佐藤大助, 金銅真世, 西田孝一郎,
大森あかね, 森脇大善, 谷井香保里, 覺道昌樹,
落合友香, 角谷誠和, 大森有樹, 小坂恵一,
大河広伸, 鶴田由美子, 小西寛孝, 小川夕紀,
淡河 敦, 野洩 秀, 野洩 大, 釜田実季,
木村 達, 吉野仙峰, 平田清剛, 三原佑介,

木田淳平, 三輪俊太, 寺内美智子, 松田敏明,
 樺山裕嗣, 久原政範, 前田千穂, 南 暢真,
 永山智崇, 菅 雄祐, 菅 智子, 中川敏和,
 中島奈津紀, 水口理砂, 森上嘉久, 代高田恵美,
 守下綾香, 中原寛和
 (兵庫県) 多鹿良裕, 鈴木龍弥, 沖田亮介,
 真下 淳, 花岡英樹, 村上国久, 山本真嗣,
 大倉賢郎, 堀田浩正, 石黒哲夫, 松本典子,
 高津充雄
 (奈良県) 井上智裕, 山中茂樹, 露木基勝,
 宮城摩里子, 鳶岡英起, 松下公男, 上田康子
 (和歌山県) 木本栄司, 濱口智恵
▼中国・四国支部
 (鳥取県) 高橋 恵
 (岡山県) 相山達也, 大森裕子, 丸尾 操,
 比良幸恵, 中田佐馨江, 林利美, 細田奈生,
 川崎清子, 森 麻衣, 芝野恭子, 合田 裕,
 古味佳子, 奥野友紀
 (広島県) 大名幸一, 三分一福展, 山本一博,
 宮里磨紀, 岡田 亮, 奥村昌泰, 谷崎正教,
 栗林雪実, 牧原勇介, 岡田信輔, 縄稚 梢,
 上間京子

(山口県) 宮本寿太郎
 (徳島県) 加古晋也, 藤原早希, 山口由美子,
 佐古真由佳
 (香川県) 菅 省吾, 高國恭子, 片桐幸大
 (愛媛県) 野口公美, 森田正二, 森田久美子,
 品川勝美, 金子未来
 (高知県) 清岡香織, 恒石和佳
▼九州支部
 (福岡県) 原賀真理子, 金氏 毅, 久鍋 司,
 吉松繁人, 財津由夏, 安部直子, 今泉康一,
 柳 束, 上妻亜也子, 高田美由紀, 水摩康一,
 緒方謙一, 三浦真由美, 清水有紀, 坂口奈津子,
 大嶋一洋, 友成博樹, 天野浩充, 武田裕利
 (佐賀県) 小川裕也
 (長崎県) 矢内雄太
 (熊本県) 三隅一公, 井上裕邦, 村上亜希,
 松山繁樹, 小林美穂, 出口浩也, 平木昭光
 (大分県) 岸本満雄
 (宮崎県) 菰渕 洋, 浜田聡美, 小森優貴,
 平塚美智代
 (鹿児島県) 守島健次
 (沖縄県) 喜如嘉亜紀 (以上 391 名)



**左・右、立位・座位、
極めたのは、全方位自在な
手術野へのアプローチ。**

4つの電動リクライニングと豊富な可動システムにより、
安定かつ自在な手術野へのアプローチを実現したフルマバ。
最低位が低く、スムーズな乗り降りを可能にし、
患者さんの快適性と術者の作業性を高次元で実現しました。

PRIMUS
brumaba

NEW! PRIMUS / GENIUS プリムス・ジニアス

<ul style="list-style-type: none"> ■ 販売名 プルマバ OP プリムス / プルマバ CL ジニアス ■ 型式 OP PRIMUS / CL GENIUS ■ 電源 バッテリーDC24V 容量20A / AC100~240V ■ 機器の分類 一般医療機器(クラスI)特定保守管理医療機器(共通) ■ 医療機器届出番号 26B1X00001000508 / 26B1X00001000509 ■ 一般的名称 汎用電動式手術台(共通) ■ 標準価格 5,980,000円 / 3,980,000円 	 <p>必須機能を厳選した ベーシックモデル。</p>
---	--

※標準価格は2010年4月21日現在(消費税別)のものです。
※仕様および外観は製品改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

株式会社モリタ 製造販売 **株式会社モリタ製作所**

大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18
 〒564-8650 TEL(06)6380-2525
 東京本社 東京都台東区上野2-11-15
 〒110-8513 TEL(03)3834-6161
www.dental-plaza.com

本社 工場 京都府京都市伏見区東浜南町680
 〒612-8533 TEL(075)611-2141
 久御山工場 京都府久世郡久御山町大字市田小学新珠城190
 〒613-0022 TEL(0774)43-7594



JMM JAPAN MEDICAL MATERIALS

POIEX

(POI ファイナフィックス 医療機器承認番号 20300BZZ00313000)
 (POI ファイナタイト 医療機器承認番号 20500BZZ00083000)

**PreVista
Uni-3D Multi**

医療機器認証番号：221AABZX00124000

日本メディカルマテリアル株式会社

大阪府淀川区宮原3丁目3-31(上村ニッセイビル10F) 〒532-0003
 Tel:06-6350-1036 Fax:06-6350-5736 <http://www.jmmc-dental.jp/>

東京支社 東京都新宿区西新宿2丁目4-1(新宿NSビル10F) 〒163-0810
 Tel:03-5339-3627 Fax:03-3343-3096

名古屋営業所 名古屋市東区築3丁目15-31(住友生命千種ニュータワービル6F) 〒461-0004
 Tel:052-930-1480 Fax:052-938-1388

大阪営業所 大阪府淀川区宮原3丁目3-31(上村ニッセイビル8F) 〒532-0003
 Tel:06-6350-1007 Fax:06-6350-8157

九州営業所 福岡市博多区博多駅東2丁目10-35(JT博多ビル7F) 〒812-0013
 Tel:092-452-8148 Fax:092-452-8177

平成24年度 支部学術大会一覧

開催数 支部名	学術大会開催日 および 大会長	会 場 (住所・TEL)	大会事務局 (住所・TEL・担当者)
第32回 東北 北海道	平成24年 11月3日(土)～4日(日) 第32回大会長：山森徹雄	奥羽大学第二講義棟 〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂 31-1 TEL：024-932-8931(代) FAX：024-938-9192 (病院長秘書室)	奥羽大学歯学部 歯科補綴学講座内 〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31-1 TEL：024-932-9304 FAX：024-938-9192 (病院長秘書室) 関根貴仁
第32回 関東 甲信越	平成25年 2月10日(日)～11日(月・祝) 第32回大会長：築瀬武史	京王プラザホテル 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 TEL：03-3344-0111	社団法人日本歯科先端技術研究所 〒105-0014 東京都港区芝1-8-25 芝TKビル4F TEL：03-5476-2004 江黒 徹
第33回 中部	平成24年 10月27日(土)～28日(日) 第33回大会長：橋本賢二	アクトシティ浜松 コンgresセンター 〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1 TEL：053-451-1111 FAX：053-451-1123	伊東歯科医院 〒425-0071 静岡県焼津市三ヶ名1249-1 TEL：054-627-4696 FAX：054-620-2772 伊東 哲
第32回 近畿 北陸	平成24年 9月21日(金)～23日(日) 第42回年次学術大会併催 第32回大会長：江藤隆徳	大阪国際会議場 (グランキューブ大阪) 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51 TEL：06-4803-5555 FAX：06-4803-5620	大阪歯科大学 口腔インプラント科内 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-5-17 TEL：06-6910-1089 FAX：06-6910-1048 馬場俊輔
第32回 中国 四国	平成24年 11月17日(土)～18日(日) 第32回大会長：岡本康生	高知県総合あんしんセンター 〒780-0850 高知市丸ノ内1-7-45 TEL：088-824-3400 (高知県歯科医師会) FAX：088-872-8011 (高知県歯科医師会)	かにたに歯科医院 〒782-0004 高知県南国市大口甲765-1 TEL：088-878-2677 FAX：088-878-2688 蟹谷英生
第30回 九州	平成25年 1月19日(土)～20日(日) 第30回大会長：阿部成善	別府ビーコンプラザ 〒874-0828 大分県別府市山の手町12-1 TEL：0977-26-7111	加来デンタルクリニック 〒871-0057 大分県中津市三ノ丁1278-3 TEL：0979-22-0708 加来敏男



アストラテック インプラントシステム

OsseoSpeed™ インプラント



OsseoSpeed™
— 化学的に処理されたチタン表面性状



MicroThread™ — 生体力学的骨刺激



Conical Seal Design™ — 強固かつ安定した適合性



Connective Contour™ — 軟組織接触面積およびボリュームの増加

Astra Tech BioManagement Complex™

新たに6mmのラインナップが加わりました
※直径4mmのみ



NEW

承認番号 20700BZG00070000	届出番号 13B1X00020000003	13B1X00020000008
20800BZG00033000	13B1X00020000004	13B1X00020000009
20800BZG00034000	13B1X00020000005	13B1X00020000019
	13B1X00020000007	13B1X00020000020





製造販売業者 アストラテック株式会社 〒104-0031 東京都中央区京橋1-3-1 八重洲口大栄ビル12F
TEL:03-3243-5055 FAX:03-3243-5057 <http://www.astratech.jp>

HemCon Control — 止血操作のさまざまな局面に

ヘムコン デンタル ドレッシング® HemCon Dental Dressing®



速やかな止血効果。
抜歯など口腔内手術に伴う出血に、
ヘムコン デンタルドレッシング。



■10mm×12mm
(1箱12枚入り)
製品番号: ZE0001



■25mm×70mm
(1箱12枚入り)
製品番号: ZE0002



■25mm×70mm
(1箱5枚入り)
製品番号: ZE0004

医療用品 4 整形用品
一般医療機器 綿状パッド 32572000
届出番号: 13B1X00066000007

●お問い合わせ・資料請求先
TEL.03-3265-6252
FAX. ☎0120-118-084
イイハ、オハヨー
株式会社 白 鵬
zimmer dental 社 輸入販売元
本 社 / 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3-23
東京支社 / 〒102-0083 東京都千代田区麹町2-3-3

発売元  ゼリア商事株式会社

製造販売元  ゼリア新薬工業株式会社

製造元  HemCon
MEDICAL TECHNOLOGIES INC.

目次

安全・安心なインプラント治療を目指して	1
第41回 学術大会開催報告	2~3
第42回 学術大会案内	4
第41回 学術大会受賞者紹介	5
平成23年度 名誉会員紹介	5, 6
平成23年度 学会特別論文賞受賞者紹介	6, 7
平成23年度 学会奨励論文賞受賞者紹介	7, 8
平成23年度 優秀研究発表賞受賞者紹介	8~11
平成23年度 デンツプライ賞受賞者紹介	12~14
AAID 第60回 年次総会参加記	14, 15
研修施設紹介	16, 17
東日本大震災における被災地への歯科医療従事者, 検案参加者紹介	17
身元確認作業に参加して	18, 19
平成23年度 ケースプレゼンテーション試験合格者紹介	19
新入会者紹介	20, 21
広告	21, 23, 24
平成24年度 支部学術大会一覧	22
目次	24

GC

アンカーサーフェス

新・表面性状「Anchor surface[®]」が
良好なオッセオインテグレーションを実現。
ジェネシオPlus、セティオPlus 新登場。

※Anchor surface (アンカーサーフェス)
「Anchor surface」はジーシーの骨代謝研究に基づいて
確立された表面性状です。「Anchor surface」のミクロ
及びマクロな二重凹凸構造は、血液中に含まれる血小板や
フィブリン線維が絡みやすく、また、これらの凹凸に沿って
骨組織が形成されることにより、良好なオッセオインテグ
レーションが期待されます。

GC IMPLANT Re
internal implant / external implant
GENESiO Plus / SETiO Plus

ジーシー スクリューインプラントReV 高度管理医療機器 22300BZX00099000
ジーシー スクリューインプラントRe 高度管理医療機器 21400BZX00102000

発売元 株式会社 ジーシー / 製造販売元 株式会社 ジーシー
東京都文京区本郷3-2-14 東京都板橋区蓮沼2丁目76-1
※掲載の情報は2011年10月現在のものです。

広報委員会からのお知らせ

前年度に引き続き春日井昇平(東京医科
歯科大学)が委員長を務めます。現在の広
報委員会のメンバーは以下の通りです。

委員長：春日井昇平

副委員長：五十嵐俊男

委員：山内六男, 嶋田淳, 十河基文,
内藤宗孝, 北川昇, 土屋直行

今後とも広報委員会は、ニュースレター
とホームページを通じて会員の皆様に学会
の情報を素早く正確に伝達するよう努力致
しますので宜しくお願い致します。ご意見
、ご要望等ございましたら、以下の連絡先
にご連絡ください。

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学インプラント・口腔再生
医学 春日井昇平

電話：03-5803-5934

ファックス：03-5803-5934

メールアドレス：kas.mfc@tmd.ac.jp

インプラント学会

検索